

東北支部学術交流会開催報告

■北東北ブロック学術交流会

「平成23年度 日本都市計画学会北東北ブロック学術交流会」が、平成24年3月3日(土)の午後、北上市のいわて連携復興センター会議室において開催された。交流会では、冒頭に北原副支部長が挨拶と趣旨説明を行い、その後、各指導教員が司会進行をする形で、学部生・大学院生による研究成果が発表された。発表は、6大学および高専から総勢12名で、一人あたり質疑応答を含めて20分ずつ、4時間の長丁場であった。参加者は、約30名であった。

■発表プログラム

弘前大学北原研からは、村上早紀子：高齢者の地域における買い物環境のゆくえ、谷本佳樹：個人が「皆の家」から「私の家族と住宅」に自立する時代へ、太田尚子：ゼロダテ2011での実践。八戸高専河村研からは、川島萌人：野田村シャレットワークショップ。岩手大学三宅研からは、濱野恵：場所への愛着が形成される要因に関する研究、金美沙子：都市河川における連続的景観の印象評価に関する研究、細川絵未：地域住民の場所の記憶を活かした町並み保全の検討。秋田県立大学山口研からは、伊藤正太：観光まちづくり地における観光客と地域住民の違いによる景観の評価傾向と来訪意向に関する研究、小笠原聡美：公営住宅における高齢者から見た居住環境の評価に関する実態調査、佐藤直樹：路地空間および路地空間周辺部における地域コミュニティ形成に係わる物理的要素の実態調査。最後に東北公益文科大学小地沢研から、菅原優花：地域社会における自発的行動の誘発—フリーペーパーの特徴にみる役割—、三井勉：学生によるシェアハウスの実態と展望、という多岐にわたる内容であった。

終了後、学生および教員、また北上市、きたかみ震災復興ステーションのメンバーを交えた懇談会も開催され、復興まちづくりにかかわる意見交換も行われ、大変有意義な1日であった。

(文責：北原啓司/弘前大学教授)

■南東北ブロック学術交流会

「平成23年度 日本都市計画学会南東北ブロック学術交流会」が、平成24年3月6日(火)の午後、郡山市民交流プラザ特別会議室において開催された。交流会では、石坂公一東北大学教授の総合司会のもと、相羽康郎東北支部長(東北芸工大教授)の挨拶と趣旨説明に続き、学部生・大学院生による研究成果が発表された。発表は、各大学の研究室代表者1名で合計9編、参加者は約50名であった。

研究発表は、2つのセッションで行われたが、昨年度とは趣向を変え、中間に「特別発表」を加えた。今回の発表内容を見ると、大震災に関する研究が目立った。都市計画の領域は学際的であるため、発表論文も都市計画・建築・造園・土木など多様であったが、分野の異なる参加者間での活発な質疑応答があり、大きな成果を得ることができた。

■発表プログラム

・第1セッション：1. 大都市圏法の政策区域を根拠とする土地利用制度に関する研究(白戸将吾：長岡技科大) / 2. 用途地域指定の手法と課題に関する研究(須田祥平：長岡技科大) / 3. 土地利用基本計画の五地域区分に関する即地的研究(藤岡禎：長岡技科大) / 4. 自転車走行環境整備に関する研究(鈴木聖太：日大) / 5. 花都・フィレンツェの街路空間における昼夜歩行時の注視に関する研究(松江宜彦：日大)。

・特別発表：「都市計画コンサルタントと行政」(脇坂隆一：国土交通省東北地方整備局都市調整官)

・第2セッション：6. 郊外住宅地における生態学的な居住環境再編の提案—上桜田地区を再び、生態系の中で人々が生きる場へ—(菅拓哉：東北芸工大) / 7. 災害時のガソリン購入行動に関する研究(河本憲：東北大) / 8. 災害時にける住宅地の集会所の利用実態と果たした役割—宮城県塩竈市の場合—(吉村東：東北大) / 9. 東日本大震災後の復興まちづくり活動の芽生えとその後の動き(刈谷智大：東北大)。

(文責：三浦金作/日本大学教授)



写真左) 北東北ブロック学術交流会、右) 南東北ブロック学術交流会